

緑の少年団交流集会

2023.7.28

感染症予防のためにオンラインで開催されるようになって3年目。今年も未だに感染が懸念される声があり、宿泊は見送られた。「昨年とは違う形で」との要望で、クイズ・講話・クラフト作成の大まかな流れは変えずに内容を新たに「木のクイズ」「これからの森と人」「動物パズル作り」の3つをお届けした。



「木のクイズ」はパネルを使った3択クイズで、3色の色画用紙で回答してもらい他の学校の答えも画面を通して確認しあえる工夫をした。森林率や世界一の木の高さなど3問出題して全問正解の学校も数校あった。

講話はパワーポイントを使いながらの話の中で、順番に各校へ質問を投げかけることでそれぞれの参加の意欲を高めるとともに、日本に植えられている杉やヒノキなどの木材の活用の仕方、割り箸を使うのは本当にもったいないことなのか？など、これからをひとりひとりが意識していけるような話の内容で関心を引き付けた。



「動物パズル」はイチヨウの輪切りの材を使用して鉋を打ち付けて割ったもので動物の形を作っていくもので、事前に準備して各団に郵送しておいた、ウサギ、イヌ、ネコなどのキットと台座を児童へ配布してもらう。

まずは、それぞれに受け取ったバラバラになった木片をを合わせると丸になるのかから確かめてもらい、木の幹や枝は三角や四角ではなく「丸」なんだなということを認識してもらった。

次は、その木片を組み合わせて動物の形にしていく。接着剤に木工用ボンドを使用してもらったので、きちんとくっつくまでに時間がかかる。外れないように手で押さえる間を利用して「ノーズ」ならぬ首振りで答えが分かったことを知らせてもらうクイズを出題。小さな画面上でも分かりやすかった。それでもボンドの湯きが遅くてなかなかくっつかず、台座に付けてドングリなどの木の実を飾り付けるのは交流集会後に仕上げてもらう形になった。時間切れとなったのは反省点である。

最後に毎年恒例になったどんぐりストラップにストラップをつけて、お土産にもらった。

感想では、それぞれの団体の活動に対する関心も高く、森林学習会の内容に関しても内容をしっかり受け止めてくれている手ごたえを感じた。

前日のリハーサルでの問題点を各インストラクターが一日で改善して、緑を大切に、森林に感謝できる流れで繋ぐとともに、オンラインではなかなか難しい各団との交流も図りながら楽しく学んでもらえた森林学習会となった。

(スタッフ：諸石・高田・大熊・轟)

